



2025年度 日本語教育学会春季大会

2025(令和7)年5月24・25日／オンライン開催

開会式は、事前のオンデマンド配信での開会挨拶のみとなります。

目 次

開催概要／目次	2
大会日程	3
開催のご挨拶	4
一般公開プログラム	6
発表一覧：パネルセッション	7
発表一覧：口頭発表	8
発表一覧：ポスター発表	10
同時開催イベント	13

◆今大会の開催方法について◆

2025 年度日本語教育学会春季大会は、全面的にオンライン開催となります。

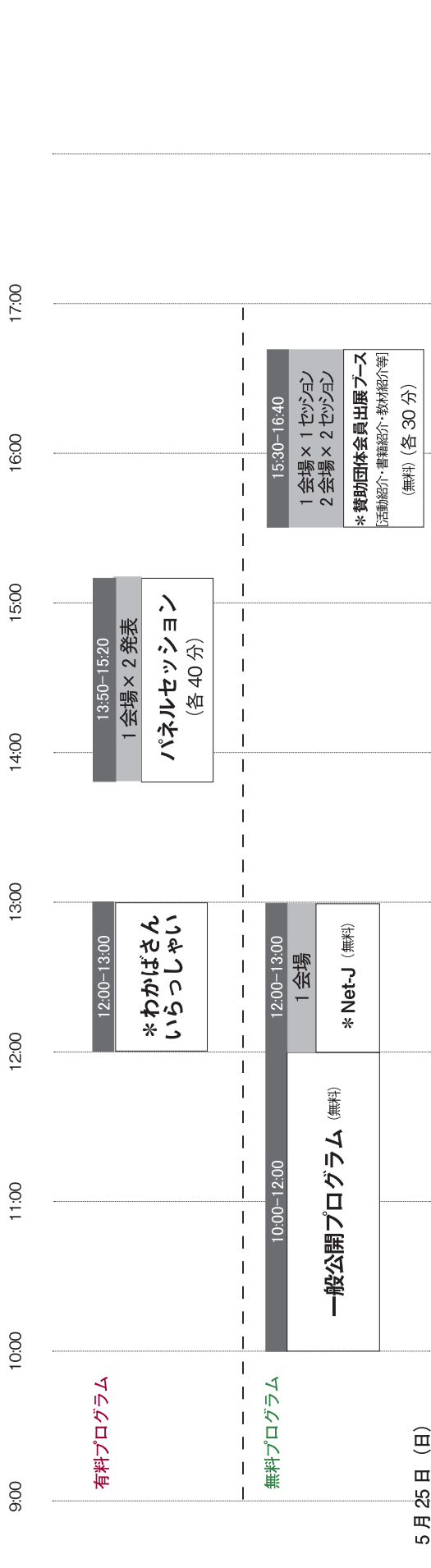
- 学会発表については、以下の 3 つの方式の組み合わせにて行います。
 - 事前のオンデマンドによるビデオ配信・資料閲覧：2025 年 5 月 16 日（金）～6 月 8 日（日）
（パネルセッション：各ビデオ 40 分，口頭発表：各ビデオ 20 分，ポスター発表：ポスター掲示）
 - 事前の指定フォームによる質問受付：2025 年 5 月 16 日（金）～5 月 23 日（金）正午
 - 大会当日の Zoom による同時双方向型の質疑応答：2025 年 5 月 24 日（土）・25 日（日）
（パネルセッション：各 40 分，口頭発表：各 20 分，ポスター発表：各 40 分）
※なお、当日は質疑応答のみで、ビデオ再生の時間は設けておりません。
- その他のプログラムの実施方法については、本プログラムおよび学会ウェブサイト「大会・イベント」のページ（https://www.nkg.or.jp/event/taikai/20241105_2813483.html）にて、今後公開される告知等をご確認ください。
- オンライン開催における有料プログラムへのご参加は、事前参加登録のみとなります（当日受付は行いません）。
- 無料プログラムへのご参加につきましては、事前申込は不要です。参加方法については、学会ウェブサイトをご参照ください（4 月中旬に詳細を公開予定）。

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費（有料プログラム）：
 - 【事前登録 ※お支払い時に別途手数料がかかります】
 - 会員 3,500 円
 - 会員（有効期限付き学生証を提出済みの方）2,000 円
 - 会員でない方 5,000 円
 - 【当日受付】オンライン開催では行いません。
- ◆事前登録期間：2025 年 4 月 15 日（火）～5 月 14 日（水）
- ◆問合せ先：
 - E-mail: taikai-office@nkg.or.jp（下記を除く大会に関する問合せ先）
 - nkg.taikai@gmail.com（オンライン参加に関する技術面の問合せ先）
 - TEL: 03-3262-4291

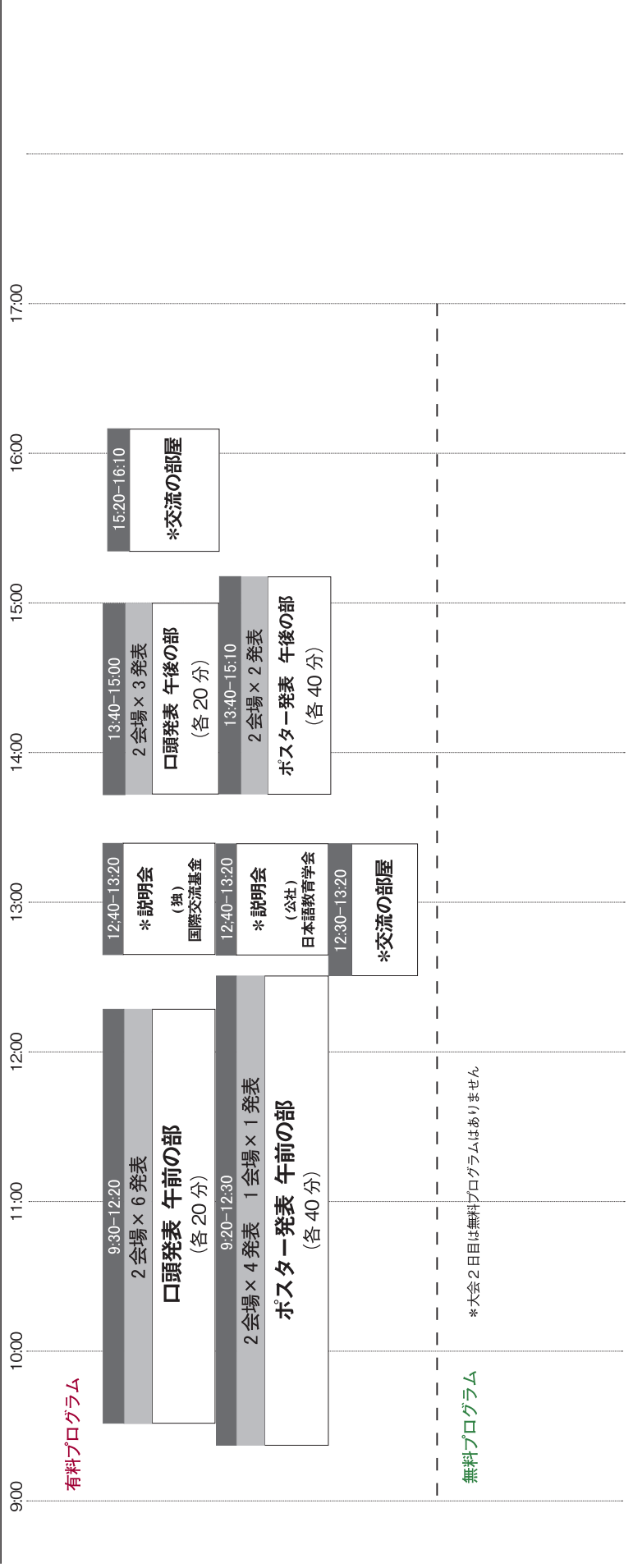
◆大会日程◆

5月24日(土)

* 印のイベントの概要は、13～16ページをご覧ください。



5月25日(日)



* 大会2日目は無料プログラムはありません

開催のご挨拶

昨年度は、日本語教育機関認定法（正式名称は「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」）に基づく、日本語教育機関の認定や日本語教員国家試験などが行われました。ざっと状況を見ると、日本語教育機関については第1回申請で22件が認定され、日本語教員養成機関と実践研修機関については、同じく第1回申請で、各々40件と34件が登録確定となりました。一方、日本語教員国家試験については、受験者数が17,655人で合格者は11,051人（合格率62.6%）となっています。ただし、合格者には、全試験免除となった日本語教育能力検定試験に合格している現職者が含まれています。日本語教育の制度の具体化の1年目となったこの年は関係者にとってはかなり大変な1年であったと思います。

教育機関の認定と教員国家試験について言うと、前者においては「日本語教育の参照枠」を参考にした教育課程の企画が要請されており、後者については、先に言及した全試験免除の現職者を対象とした講習で「日本語教育の参照枠」関係の内容がかなりの部分を占めていたと聞いています。いずれにおいても、「日本語教育の参照枠」がこれからの日本語教育者の「共通の専門知識」となることが示されていると言っていいでしょう。ただ、「参照枠」というのは、いわば「皆が共通言語として」参照する枠組みであって、決して「規準」というようなものではありません。ですから、認定日本語教育機関における今後の教育の改善や革新も、登録日本語教員による日本語教育の実践も、「日本語教育の参照枠」に縛られるのではなく、「日本語教育の参照枠」やその元となっているCEFRを十分に参考にしながら創造的に展開し発展していくことが期待されます。

今大会の一般公開プログラムでは「若者のキャリア形成支援としての日本語教育」とのテーマの下に、10代から20代の若年層の日本語学習者をめぐるキャリア形成支援をも視野に入れた日本語教育のあり方について、登壇の先生方の話をうかがい、皆さんといっしょに考えたいと思います。そうした日本語教育は、日本語教育者がその専門性を基盤として創造的に日本語教育を展開する一つの格好のケースだと言っていいでしょう。

2日間の大会を通して活発な議論と対話が展開され、参加の皆さん一人ひとりが日本語教育者としてまた日本語教育研究者としてさらなる成長の糧を得られることを祈っています。

公益社団法人日本語教育学会会長 西口光一

.....大会テーマ設定に関して.....

公益社団法人日本語教育学会では、次の3つの社会的研究課題を設定し、2017年度より各委員会が連携し、取り組んでまいりました。

- 課題1： 日本語教育学の「学問的専門分野」としての体系的枠組みの構築
- 課題2： 日本語人材・複言語人材育成のための日本語教師養成・研修の理念と枠組みの再構築
- 課題3： 多様なキャリア形成のための日本語教育内容の体系的再編成

公益社団法人日本語教育学理念体系より (https://www.nkg.or.jp/.assets/rinen_2015-2019.pdf)

開催のご挨拶

課題1は、次の通りです。

日本語教育関係者が日々研究・実践している多様な課題や領域の全体を「学的領域」として改めて捉え直し、その包括的領域内の個々の課題や領域の相関関係を体系的に整序して、「新たな学問的専門分野 (discipline) としての日本語教育学」の「学としての概念的輪郭」を描出・記述する。

「日本語教育学」と言えば、誰もがおよそその研究・実践の領域的輪郭を描くことができ、多様な諸活動を支える中核的な基礎概念・方法論的立場・評価基準などを緩やかに共有することができ、「人をつなぎ、社会をつくる」ための通用性のある「固有の学的専門性」を主張できることを目指す。

課題2は、次の通りです。

日本語教育の研究者・教育者・実践者の育成方法、教育内容、教育体制の多様化と深化を見据えた上で、日本国内外の人材育成の在り方を抜本的に再検討する。

高等教育段階における「学術的・専門的な日本語運用能力」、地域社会における「日常生活的な日本語運用能力」、初等中等教育 段階における「児童・生徒の自我の成長を 支え教科学習に参加できる日本語運用能力など、多様な「日本語運用能力」の育成・強化に関する現状・問題点・課題・必要性（ニーズ）を摘出・確認し、多様な日本語教育を担う柔軟で即応力のある日本語教師に求められる知的・技術的・人間的な素養について再検討する。

日本にとって地理的に近いアジア地域や 世界各地の日本人の移住・集住地域などを軸にしつつ広く諸外国・諸地域における日本語教育の在り方について、また、それぞれの地域における日本語人材や複言語人材の養成・研修の在り方について地政学的な観点から再検討し、相互交流・相互理解そして共生社会形成の素地作りについて、議論を喚起していく。

課題3は、次の通りです。

研究者や高度職業人として必要なコミュニケーション能力育成、「生活者としての外国人」の職場や地域社会におけるコミュニケーション能力育成、また年少者を含む生活者のキャリア形成やキャリアアップのための包括的教育・学習支援の在り方を研究・開発する。

同時に、そのような日本語人材・複言語人材の多様な組織や日本社会への受け入れによる社会的インパクトについて、また少子高齢化する日本社会の活性化への将来的影響等についても研究し、併せて多文化・多言語を背景とする人々をつなぎ、多元的な共生社会を創っていくための日本語教育施策の在り方と意義についても議論を喚起する。

課題1～3は繰り返し順に取りあげられ、1つの課題は「春季大会発表募集テーマ」「春季大会一般公開プログラム」「学会誌特集テーマ」が連動することにより、具体となります。今回の発表募集テーマは課題3に基づいています。

* 無料でご参加いただけます。

若者のキャリア形成支援としての日本語教育 —自律性・主体的自己決定を支える—

5月24日（土）10:00～12:00

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

私たちは今、変化が激しく、未来を見通すことが困難な時代を生きています。その中においてキャリアを自分らしく形成していくためには、目標を定めてそこから逆算して考えるというだけでは十分ではありません。一人ひとりが自分自身を理解し、社会の変化を感じ取りながら、自律的・主体的に考えて行動していく力が求められます。

若者の自律的・主体的キャリア形成に日本語教育はどのように貢献可能でしょうか。本プログラムでは、特に10代・20代のキャリア形成支援としての日本語教育に焦点をあて、3名の専門家が多角的に議論します。これまでの事例や知見にもとづき、その意義や可能性、さらには限界や課題についても検討できる場にしたいと考えます。

日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命としています。若者のキャリア形成、また、その支援としての日本語教育について考えることで、人をつなぎ、現代および未来の社会について探究する機会とできれば幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

登壇者（五十音順）：

鹿毛雅治氏（慶應義塾大学教職課程センター 教授）

金子史朗氏（友国際文化学院 校長）

志賀玲子氏（武蔵野大学グローバル学部
日本語コミュニケーション学科 教授）

司会：

伴野崇生（慶應義塾大学・日本語教育学会調査研究推進委員会委員）

助成：一般社団法人尚友倶楽部

パネルセッション—質疑応答—

[13:50 ~ 15:20 (各 40 分)]

第 1 会場

13:50 ~ 14:30

①

日本語母語話者と非母語話者が共に学ぶ日本語教師養成プログラムのあり方とは
 —非母語話者受講生のニーズや特性を活かす視点から—

川上尚恵 (神戸大学)
 高梨信乃 (関西大学)
 朴秀娟 (神戸女学院大学)
 齊藤美穂 (神戸大学)

14:40 ~ 15:20

②

看護介護現場の外国人の用語習得の難しさ

丸山真貴子 (目白大学)
 遠藤織枝 (にほんごの会)
 吉永尚 (園田学園大学)
 佐藤和也 (ミャンマーサンコウ)
 龔佳奕 (千葉大学大学院生)

口頭発表一質疑応答一

午前の部 [9:30 ~ 12:20 (各 20 分)]

★印は、今大会のテーマ「多様なライフキャリアの形成と日本語教育の接点」に関連した発表です。

第 1 会場

第 2 会場

司会：

- 【①～③】大久保雅子 (早稲田大学)
【④～⑥】加藤恵梨 (愛知教育大学)

司会：

- 【⑦～⑨】宮永愛子 (山口大学)
【⑩～⑫】金田智子 (学習院大学)

9:30 ~ 9:50	<p>①★ マルチモーダル AI 分析による次世代型日本語聴解学習支援システムの開発研究 王睿琪 (東京外国語大学)</p>
10:00 ~ 10:20	<p>②★ 専門領域に特化した視聴覚教材の自動生成と評価の試みー生成 AI と JF スタンドード Can-do を活用した日本語教育支援ー 甘利実乃 (東京外国語大学大学院生)</p>
10:30 ~ 10:50	<p>③★ COIL(オンライン国際協働学習)の実践報告ーバーチャルツアー・プロジェクトを通してー 三戸勝 (ハワイ大学) 橋本拓郎 (香港大学)</p>
11:00 ~ 11:20	<p>④ ベトナム人日本語学習者の促音知覚ー脳波に現れる事象関連電位 P300 を指標としてー 三浦景星 (立命館大学大学院生)</p>
11:30 ~ 11:50	<p>⑤ 友人間 LINE チャットにおける発話スタイルの同調 岡崎渉 (鳴門教育大学)</p>
12:00 ~ 12:20	<p>⑥ 日本語学習者はどのように暗示的な主題・焦点を表しているのか 中西久実子 (京都外国語大学)</p>

⑦	<p>視線位置情報を取り入れた日本語の指導法ー日本人学生と日本語学習者のアイトラッキング調査と頻出表現の分析を通してー 佐古恵里香 (流通科学大学) 山内信幸 (同志社大学)</p>
⑧	<p>ストーリーテリングタスクにおける日本語学習者の流暢さの発達ーポーズ, 言い直し, 繰り返しの比較からー 曾子芸 (広島大学大学院生)</p>
⑨★	<p>感覚・感情を表すオノマトペの効率的指導についての一試案ー教材開発を視野に入れてー 吉永尚 (園田学園大学)</p>
⑩★	<p>性に焦点化した日本語教育実践のあり方ーきれいごとでは済まされない現実を起点としてー 萩原秀樹 (インターカルト日本語学校)</p>
⑪	<p>国立高専中四国ブロック日本語教育等支援拠点校としての留学生支援 山田朱美 (津山工業高等専門学校)</p>
⑫	<p>海外における CLD 児の子育て及び支援経験者の語りにみられる課題ー「CLD 児の子育て対話カード」の作成を目指してー 高橋佳奈子 (アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター) 荻田朋子 (大阪大学大学院生) 岩永府子 (フリーランス)</p>

口頭発表—質疑応答—

午後の部 [13:40 ~ 15:00 (各 20 分)]

★印は、今大会のテーマ「多様なライフキャリアの形成と日本語教育の接点」に関連した発表です。

第 1 会場

第 2 会場

司会：
【⑬～⑮】 守時なぎさ (リュブリャナ大学)

司会：
【⑯～⑱】 齋藤ひろみ (東京学芸大学)

13:40 ~ 14:00

⑬
TOWL3を基盤とした日本語作文評価基準の検討
—外国ルーツ高校生作文の分析—

深石葉子 (立命館大学大学院生)
松本理美 (大阪樟蔭女子大学)

⑯
日本語上級話者における講義聴解の推測技術

阪上彩子 (奈良教育大学)

14:10 ~ 14:30

⑭★
課題遂行型シラバスの日本語授業における教師
の意識変容—指導用手引きの効果—

渡部裕子 (東洋大学)
大石寧子 (元徳島大学)
浅見恵子 (日本国際協力センター)・榎原恵美 (同)
三浦優子 (元日本国際協力センター)

⑰★
日本語学習から始まった市民性形成—難民認定者
へのインタビュー調査から—

片山奈緒美 (東洋大学)

14:40 ~ 15:00

⑮★
オンライン日本語教師による授業記録の活用実
態に関する調査結果の報告—日本語教育における
授業記録のあり方に関する考察—

樋佳世 (メタノイア)

⑱
海外の中等教育段階における日本語教育支援策
の策定手法に関する一考察—スペインと英国の事
例を基に—

大船ちさと (国際交流基金)
平川俊助 (同)
関根千紘 (学習院大学大学院生)

ポスター発表—質疑応答—

★印は、今大会のテーマ「多様なライフキャリアの形成と日本語教育の接点」に関連した発表です。

第1会場

午前の部 [9:20 ~ 12:30 (各 40分)]

9:20 ~ 10:00

①
日本語教育実習における実習生の自己評価と意識の変容

張瀟尹 (フリーランス)

10:10 ~ 10:50

②
移民・難民の言語習得とケイパビリティ—社会経済的包摂への展望として—

工藤理恵 (フェリス女学院大学)

11:00 ~ 11:40

③
読解授業時の学習者の内言—社会文化理論に基づくアプローチ—

加藤伸彦 (京都外国語大学)

11:50 ~ 12:30

④
留学生を対象としたキャンパス体験型日本語学習RPGの開発と実践報告

麻子軒 (関西大学)

★印は、今大会のテーマ「多様なライフキャリアの形成と日本語教育の接点」に関連した発表です。

第2会場

第3会場

9:20 ~ 10:00

⑤★
大学生と創る子どものための複言語複文化教材
—全学オープン科目の実践報告—

太田裕子 (早稲田大学)

10:10 ~ 10:50

⑥
ある在日フィリピン人介護福祉士が利用者への想
いをもとに実践した介護

田鎖楠奈 (東北大学大学院生)

11:00 ~ 11:40

⑦
言語発達の観点からみた大人のナラティブの特
徴

稲葉みどり (愛知教育大学名誉教授)

11:50 ~ 12:30

⑧
日本語教師が経験した「違和感」を協働的に振
り返る実践—協働オートエスノグラフィの記述をと
おして—

齋藤郁恵 (フリーランス)
杉島夏子 (東北学院大学)
風間祐月 (フリーランス)

⑨
中国における日本文化教育の役割—教師の視点
に着目して—

成利楽 (立命館アジア太平洋大学)
道法愛 (広島大学)

ポスター発表—質疑応答—

★印は、今大会のテーマ「多様なライフキャリアの形成と日本語教育の接点」に関連した発表です。

午後の部 [13:40 ~ 15:10 (各 40 分)]

第 1 会場

第 2 会場

13:40 ~ 14:20

⑩ 進路指導における教師の不安要因 —インタビュー調査からわかること—

濱川祐紀代 (早稲田大学)
倉沢郁子 (関西外国語大学)

⑫

運筆的な困難さに対処する漢字を書く能力向上を促す指導法

セルゲエワ・アナスタシア (京都外国語大学大学院生)

14:30 ~ 15:10

⑪ 動詞が持つ構文情報の指導に向けて—動詞が取る項構造パターンの指導効果の検証—

三好裕子 (早稲田大学)

⑬

中国人日本語学習者に見られる促音挿入の実態と生起要因—中国北方方言話者を対象として—

王宇琪 (関西外国語大学大学院生)

わかばさんいらっしやい

[5月24日(土) 12:00 ~ 13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。わかばさんが初めて大会に参加するときは、「学会って、どんなところなんだろう?」「どんな人が参加しているのかな?」「どの発表を聞けばいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。そんなわかばさんをお迎えし、サポートするのが本イベントです。「わかばさんいらっしやい」では、事前に配信する動画で大会のしくみや聞く発表の選び方、大会の楽しみ方などを説明します。大会当日は、動画の内容について簡単に質疑応答を行った後に「わかばさん交流会」を開催し、わかばさん同士で交流できる場を用意します。楽しい出会いがあると大会はもっと楽しくなり、大会終了後もネットワークは広がっていくでしょう。

参加希望の方は、大会参加手続きを済ませてから、本イベント専用の申し込みフォームでお申し込みください。たくさんのわかばさんのご参加、お待ちしております。

日本語教育研究・実践(Net-J) 研究会紹介ブース

[5月24日(土) 12:00 ~ 13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 連携協力委員会 Net-J 部会

日本語教育研究・実践ネットワーク(Net-J)は、アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会、多文化共生社会における日本語教育研究会、日本語音声コミュニケーション学会、JSL漢字学習研究会、ビジネス日本語研究会、看護と介護の日本語教育研究会、日本語教育学会(事務局)の7団体で組織されたネットワークです。本ブースでは、これらの学会・研究会が、各分野の最新情報や、学会・研究会の取り組みについてご紹介します。また、当該分野の研究・実践に興味のある方の、個別の相談をお受けすることも可能です。ぜひ、関連分野の研究・実践に取り組んでいる方、また関連分野に興味のある方のご来場をお待ちしています。Zoomで直接ご質問やご相談をお受けいたします。加盟団体の詳しい情報については、各団体のサイトをご覧ください。

また、Net-Jでは、新たな加盟団体を随時募集しています。興味のある団体は、日本語教育学会事務局までご相談ください。

* 本プログラムは、Zoomミーティングのブレイクアウトルームを使用予定です。

賛助団体会員出展ブース

[活動紹介・書籍紹介・教材紹介等] *無料でご参加いただけます。

[5月24日(土) 15:30～16:40]

主催：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には「賛助団体会員」「賛助個人会員」という会員種別があり、このうち「賛助団体会員」として全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO 団体等、52 団体が入会しています。(2025 年 3 月現在)

賛助団体会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等を行います。当日の双方向型オンラインセッションのほか、オンデマンドによるビデオ配信、資料配信も行っておりますので、ぜひご覧ください。

* 出展団体につきましては、16 ページをご覧ください。

「日本語能力試験 (JLPT) 総合得点と CEFR レベルの対応付け」説明会

[5月25日(日) 12:40～13:20 (40分間)]

主催：国際交流基金日本語試験センター

国際交流基金と日本国際教育支援協会は、2025 年 2 月に「日本語能力試験 (JLPT) 総合得点と CEFR レベルの対応付け」を発表しました。JLPT 自体には問題内容を含めて変更はありませんが、2025 年 12 月試験から、試験結果通知に CEFR レベル参考表示が追加されます。本説明会ではこの対応付けについて、また試験結果通知が 12 月試験からどう変わるかについて説明します。

当日は説明のあとに質疑応答の時間も設けています。質問の受付につきましては事前、当日とも、お名前とご所属を明記の上、ご質問をお寄せ下さい。なお、以下の Web サイトをご覧くださいの上、ご質問頂くとスムーズです。

https://www.jlpt.jp/about/cefr_reference.html

(CEFR レベル参考表示 | 日本語能力試験 JLPT)

限られた時間ではありますが、可能な範囲で口頭でお答えします (同様の質問については、まとめてお答えさせて頂く場合がありますのでご了承ください)。

皆様のご参加をお待ちしています。

日本語教育学会の第3次中期計画の骨子について（説明会）

〔5月25日（日）12:40～13:20（40分間）〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 会長・副会長

2013年に日本語教育学会（以下、本学会）が公益社団法人に移行してから10年以上が経過し、本学会の活動状況も、日本語教育をとりまく社会情勢も大きく変わってきています。

2026年度から始まる第3次中期計画では、本学会の理念実現を促進するために、財政・運営上の課題を解決し、運営体制を大きく見直す予定であることは、2024年度の春季大会・秋季大会時の説明会でお伝えしました（詳細は本学会の「むすぶ」サイト内の「日本語教育学会の現状とこれから」「日本語教育学会のこれからを考える」ページ参照のこと）。

2025年度は、第3次中期計画（2026年度-2030年度）の骨子に基づき、事業運営を担う委員・理事・事務局が中心となって具体的な事業案を検討してまいります。

こうした状況を会員のみなさまとも共有したく、春季大会では第3次中期計画の骨子とその背景をご説明します。当日は質疑応答の時間も設けますので、みなさまも積極的にご質問やコメントをお寄せください。

交流の部屋

〔5月25日（日）12:30～13:20 および 15:20～16:10〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 大会委員会

2025年度春季大会も、「交流の部屋」というスペース・時間を設けることにいたしました。二日目の昼休みと午後の口頭発表が終了したあとに50分ほど交流のスペース・時間を設けます。出入りは自由です。

Zoomの部屋を用意しますので、会員同士の交流の場としてご利用ください。このZoomの部屋は、いくつかのブレイクアウトルームに分かれて利用することができます。学会参加者の皆様は、どなたでも利用することができます。発表者と参加者、あるいは参加者同士が、さらに意見交換をしたり情報交換をしたりして交流を深める場としてご利用ください。

交流の部屋につきまして、何かありましたらご意見いただけますと幸いです。

*本プログラムは、Zoomミーティングのブレイクアウトルームを使用予定です。

5月24日(土) (団体名及びキーワード)

第1部 [15:30 ~ 16:00]

第1会場

一般社団法人
Global 8
スリランカにおける
日本語教育事情 /
LNBTIにおける会話評価

第2会場

株式会社
ひつじ書房

書籍紹介

第2部 [16:10 ~ 16:40]

第1会場

一般財団法人
海外産業人材育成協会
AOTS 事業紹介 /
日本語講師・
研修受講者募集

第2会場

公益社団法人
国際日本語普及協会

教材紹介 /
日本語の教え方講習会

第3会場

株式会社
アルク

日本語教師養成 /
教材紹介

◆動画・資料配信 (団体名及びキーワード) :

株式会社 三修社 (異文化コミュニケーション / can-do)
株式会社 スリーエーネットワーク (教材紹介)
公益財団法人 日本漢字能力検定協会 (BJT / ビジネス日本語)

◆資料配信のみ (団体名及びキーワード) :

株式会社 くろしお出版 (書籍紹介 / 教材紹介)
株式会社 研究社 (書籍紹介 / 教材紹介)
独立行政法人 国際交流基金 (教材紹介 / 事業紹介)
有限会社 Jリサーチ出版 (教材カタログ / 和英2か国語で紹介)

* 賛助団体会員出展ブースの事前申込は不要です。参加方法は4月中旬に学会ウェブサイトで開催予定です。